**【小学校・中学校・義務教育学校用】**

令和５年度学校評価 計画

学校評価表作成について変更した点は朱書き

**達成度（評価）**
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

| 学校名 | 嬉野市立大草野小学校 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 1　前年度<br>評価結果の概要 | ・共通実践として学習過程の中に書く活動・交流する場面を取り入れ、児童が生き生きと表現し学ぶ意欲を高める授業づくりに継続して取り組む必要がある。<br>・いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための取組の充実や組織的対応の一層の充実を図る必要がある。また、夢や希望・思いやりの心など豊かな心を育む児童支援及び学級経営を継続して行う。<br>・各種行事の見直しを含む業務内容の改善、情報の共有化、協同性の推進を図りながら職員の意識改革を進め、働きがいのある職場づくりをめざすことで、業務効率化を進める。 |
| 2　学校教育目標 | **笑顔いっぱい、生き生きと学び合う蛍っ子の育成** |
| 3　本年度の重点目標 | **①　学び続ける子どもの育成（⑴ 生き生きと表現し、わかる授業の工夫　⑵ 読書教育の充実　⑶ 望ましい学習習慣と学習態度の育成 ）**<br>**②　思いやりのある子どもの育成（⑴ 当たり前のことが当たり前にできるようにする指導の徹底　⑵ 自分や相手の良さを認め合う心の育成　⑶ 自主的・自発的な態度の伸長　⑷ 特別支援教育の充実 ）**<br>**③　たくましい子どもの育成（⑴ 運動習慣の推進　⑵ 健康的な生活習慣の定着　⑶ 食育の推進　⑷ 危機回避能力の向上 ）** |

## 4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

**（1）共通評価項目**

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ●学力の向上 | ○全職員による分かりやすい授業実践を通し、自分の考えを友達に伝えることができる児童の育成 | ○「授業がわかりやすい」と答える児童の割合を80%以上にする。<br>○「自分の考えを友達に伝えることできる。」と答える児童の割合を80%以上にする。 | ・学習過程の中に自分の考えを書く活動を意図的に設定し、グループや全体で交流する中で考える力や説明する力を育てる。 | A | ・2月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した児童が87%。目標を上回ったが、前回とほぼ同じ数値で職員の更なる授業改善の意識を高める必要がある。<br>・2月アンケート調査で肯定的に回答した児童が91%。小集団の中での伝え合いは十分できているが、全体の前での伝え合いに課題が残った。 | A | ・設定目標は達成できている。しかし、「できない」と答えている児童への支援をどうするのかを今後検討していく必要がある。 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○年3回以上の人権や平和に関する学習活動や体験活動を実施する。 | ・ふれあい道徳（授業公開）を年1回実施する。<br>・人権学習や平和学習を行い、人権・同和教育や平和教育の推進を図る。<br>・コミュニティと連携し体験活動を充実させる。 | A | ・全校一斉に県の教材「ジンちゃんケンちゃんと一緒に学ぼう」に取り組んだ。集会では、学習で学んだことを発表し、全校で共有することができた。<br>・代表委員会での決定事項を受けて「ありがとうの木」や「学年毎の合い言葉」など、様々な取組を行い人権についての意識を高めることができた。 | A | ・ふれあい道徳や人権学習、平和学習など、学習活動や体験活動が計画的かつ工夫して実施できている。 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ防止（いじめの定義、いじめの防止等の取組、事案対処等）について組織対応ができていると回答した教員90%以上 | ・気になる子の連絡会を中心に問題行動やいじめ等について共通認識・共通理解のもと組織的に対応にあたる。<br>・QU結果の分析活用、心のアンケートの実施やいじめの対応についての研修・会議を実施する。 | A | ・全職員が子ども一人一人を大切にした学級経営に努めていると肯定的に回答した。いじめ問題等について「組織的に」という共通理解のもと対応できた。<br>・Q－Uを2回実施し児童支援や学級経営に活用した。また、心のアンケートの実施や教育相談週間を設け、児童の心の変化を把握し、きめ細やかな支援を行うことができた。 | A | ・児童も職員も非常に意識が高く日頃の取組がしっかりで聞いているという証だと思う。<br>・いじめについての認識は個人差があると思うので、児童も保護者も伝えやすい相談しやすい環境作りをお願いしたい。 |
| | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上<br>●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 | ・児童に将来の夢や目標を持たせるための体験活動や授業を実施する。<br>・学習や体験活動で、児童に活動のめあてや見通し、学びのふり返りを行う活動を仕組む。<br>・体験活動後キャリアパスポートを活用し、成長を実感させる。 | B | ・児童と職員に意識の差が見られ、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した児童は82%で、前回に比べ減少していた。児童が認められたと実感できる言葉かけや場の工夫が必要である。<br>・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をしている児童が増えた。講演会「ようこそ先輩」や道徳などの授業を通して将来についてのイメージを持たせるための手立てを工夫することができた。 | B | ・「自分には良いところがある」に否定的な回答をした児童が18%いるのが気になる。今後も些細なことでもほめることを続けていただきたい。 |
| | ◎自己肯定感や自己有用感を育む教育活動。 | ・自己肯定感や自己有用感を実感している児童80%以上。 | 「ほめることから始める」を合言葉に学校生活のあらゆる場面で児童の善行や成長を褒めていく。 | B | ・「自分には良いところがある」と答えた児童は79．2%と増加し、「ない」と思っている児童が8．5%とあまり変わらなかった。児童が自分に自信をもてるように、児童個々をしっかり見て、その子の良さを見つけ、ほめる・認めることを継続していく。 | B | ・児童と職員のアンケート結果の開きが大きい。成績が低い児童でも、何かを認めてほめてあげることで自己肯定感に繋がると思う。今後も継続してもらいたい。 |
| ●健康・体つくり | 次の中から1つ以上を選択<br>❶「運動習慣の改善や定着化」<br>❷「望ましい生活習慣の形成」<br>❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」<br>❹「安全に関する資質・能力の育成」 | ❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒を60%以上にする。<br>②健康的な生活習慣の定着のために「早寝早起き朝ご飯」を推奨する。<br>❸「健康に良い食事をしている」児童80%以上<br>❹児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする | ・一日60分以上運動やスポーツができるように昼休み時間はできるだけ体を動かすように体育委員会が中心に児童に呼びかけを行う。<br>・「蛍っこカード」を通して年に2回取り組む。<br>・学校栄養士による月1回の食育の授業や給食便りや毎日の給食時間の健康委員会による放送などを通して、食の大切さを知らせる。<br>・交通指導員の方と連携して、1年生の交通安全教室や3年生の自転車指導を年1回行う。 | A | ・食育の授業を通して、児童に食事の量や好き嫌いの様子についての変化が見られた。<br>・6月と11月には「早寝・早起き・朝ごはん」チェックシートに取り組み、保護者とともに意識づけを行うことができた。<br>・県の調査で「健康に良い食事をしている」と回答した児童は90．9%であり、健康と食事の関係性について考えることができている。<br>・授業以外での運動やスポーツは、土日祝日の習い事を含めると達成できたと言える。<br>・交通安全教室、自転車教室を行ったことで、交通事項等の件数は0であった。 | A | ・家庭への啓発、連携が必要。「きちんとした食べ方はきちんとした生き方につながる」。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。<br>○少なくとも週1日以上は概ね定時に退勤したと答える職員を80%以上にする。 | ・定時退勤日、定時退勤推進日、強化日等の徹底及び、マイ定時退勤日の設定、掲示による全職員での取組と意識改革。<br>・職員の勤務時間把握、業務内容把握と改善のための働きかけ。<br>・各プロジェクト部長を中心として、コンパクトな行事運営を念頭においた取組の提案と実践。 | A | ・全職員の時間外勤務時間の月別平均は1月までの平均が「34時間」であった。昨年度より2時間ほど減っている。また、アンケートの結果、定時退勤推進日や強化日を守れたと答えた職員は90%であった。計画的に業務に取り組む習慣や退勤時間を守る意識が定着してきている。<br>・各部会の部長や担当が行事の計画を立てる際に、前例踏襲ではなく、業務改善・教育効果を意識して話し合いを進める習慣ができてきた。 | A | ・定時に退勤するという意識が前回と比較すると劇的に向上している。継続して取り組んでいただきたい。<br>・若手教員ほど教材研究の蓄積が少ないので、必要に応じてフォローしていく必要がある。 |

**（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目**

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ○特別支援教育の充実 | ○特別支援教育に対する全職員の意識や技能の向上 | ○校内研修を通して、特別支援教育に関する知識や技能が向上した教員を90%以上にする。 | ・専門機関と連携して職員研修を行う。<br>・個別の支援計画を作成し、個に応じた支援指導を行い、必要に応じてケース会議を行い共通理解を図る。<br>・支援学級の授業を参観し、専門的スキルを学ぶ。 | A | ・講師を招聘したり職員研修を行ったり、入学や中学進学にあたりスムーズに進めることができるように移行支援会議を開いたりした。また、支援を要する児童については、毎週情報交換を行い、全職員で共通理解・共通支援を行うことができるようにした。<br>・随時ケース会議を開き、共通理解を図りながら支援にあたった。職員の特別支援教育、不登校対応に対する意識が向上した。 | A | ・多様化する教育ニーズに対応して取り組まれており敬服します。 |
| ○安全対策 | ○危機回避能力の向上<br>○危機管理及び安全対策の強化 | ○防犯ブザー所持率100%、自転車のヘルメットの着用率100%。<br>○危険状況や安全対策に対する理解を深め緊急の場合自分はどうしたらよいかわかる児童90% | ・防犯ブザー所持点検を毎月行い、自転車については保護者への啓発や交通安全教室等を実施して徹底を図る。<br>・避難訓練において事前・事後指導を確実に行い、危険予知能力の向上をめざす。<br>・PTA・交通指導員と連携を図る。 | B | ・防犯ブザー所持検査を月初めに行い、忘れた児童には声をかけるようにした。防犯ブザー所持率は85%、ヘルメット着用率は93%であった。<br>・火災や地震、不審者対応等の防犯教室を実施し、危険な状況や安全対策に対する知識やとるべき行動について理解している児童は95%であった。<br>・不審者対応については職員向けの訓練も実施することができた。 | B | ・防犯ブザーの所持やヘルメットの着用などは命に関わることなので、常に意識するように今後もご指導ください。 |

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

| | |
|---|---|
| 5　総合評価・<br>次年度への展望 | ・読書活動の充実や拡大図書館祭りの実施など、図画工作科、音楽科を中心に感性を磨く教育に取り組む。また、共通実践として学習過程の中に書く活動・交流する場面を取り入れ、児童が生き生きと表現し学ぶ意欲を高める授業づくりを継続する。<br>・自己肯定感・自己有用感の涵養のために、五感に響き働く言葉かけや活動を仕組み、夢や希望・思いやりの心など豊かな心を育む児童支援及び学級経営を充実させる。<br>・いじめの未然防止・早期発見・早期対応体制の充実や組織的対応の一層の充実を図る。<br>・各種行事の見直しを含む業務内容の改善、情報の共有化、協同性の推進、及び地域コミュニティとの建設的な連携を図りながら、職員の意識改革を進め、働きがいのある職場づくりをめざすことで、業務効率化を進める。 |